

学校関係者評価委員会 平成 29 年度 第 1 回委員会 議事録

1. 日時および場所

日 時：平成 29 年 10 月 12 日(木) 18：30～20：20

場 所：修成建設専門学校 会議室

2. 出席者（順不同、敬称略）

(1) 委員

丸山 徹、相賀 勝、藤田 晴樹、山崎 充、武井 彰

田中 文雄、大和 正、荻野 起三子

(計 8 名)

(2) 学校（オブザーバー）

山下裕貴、堤下隆司、谷川 博康、

増田和浩、見邨佳朗、中島良明、中安哲男、野瀬孝男

(計 8 名)

(参加者合計 16 名)

3. 配布資料

資料 1-1：平成 29 年度第 1 回委員会 議事次第

資料 1-2：参加者出席名簿

資料 1-3：平成 28 年度第 2 回学校関係者評価委員会 議事録(案)

資料 1-4：学校自己評価報告書採点用紙と返信封筒

4. 議題等

(1) 開会挨拶（資料 1-1）

堤下校長の開会の挨拶に続き、藤田前委員長、山下理事長から挨拶がなされた。

(2) 委員紹介（資料 1-2）

堤下校長から平成 29 年度、30 年度の委員の紹介がされ

委員長に藤田委員、副委員長に相賀委員が委員の互選により選出された。

(3) 議事内容説明

1) 平成 28 年度第 2 回学校関係者評価委員会 議事録確認（資料 1-3）

谷川委員から前回開催された平成 28 年度第 2 回学校関係者評価委員会（平成 29 年 2 月 15 日実施）の議事録を説明・確認し、その内容について全会一致で承認された。

2) 平成 28 年度 学校自己評価報告書について

基準 1 から基準 10 までに関し学校オブザーバーより報告が行われた。

(4) 議案

1) 平成 28 年度 学校関係者評価委員会報告書について藤田委員長はじめ各委員より質問や意見があった。内容については以下の通りである。

①「教育活動、学習成果」の評価について

- ・建築学科は、教職員の項目に関しほぼ適切と評価している。しかし、将来的なことも考え、常に良い人材確保を積極的に考えている。
- ・空間デザイン学科は、教育方法、教科の項目に関しほぼ適切と評価しているが、関連分野における企業連携や外部講師招聘など企業、団体との連携を、今後より積極的に進めたいと考えている。
- ・建築 CG デザイン学科は、デジタル設計の CG 動画や 3D プリンターなどについてもさらに取り組んで行きたいと考えている。
- ・住環境リノベーション学科は、教職員の項目に関しほぼ適切と評価しているが、学生が取得する資格等に関して知識、技能等を習得するため、教員自ら資格を取得して行きたいと考えている。

②「学生支援」について

- ・同窓会組織「修友会」は学生支援のため、学園法人が設立した基金への協力を行なう予定である。
- ・相賀副委員長より平成 29 年 10 月 6 日に実施された第 4 1 回建築士事務所全国大会（和歌山大会）で、各府県の会長から修成建設専門学校の学生作品に対して高い評価を頂いたとの報告があった。

堤下校長より今回の全国大会には建築士事務所協会からの依頼を受け空間デザイン学科の学生が作品を作成し出展等をしていたことの補足説明があった。

③「インターンシップ」について

- ・インターンシップの期間等について。
インターンシップは 5 日程度で実施しているが 1day から 3、4 週と企業様によって色々ある。
参加者の殆どが 1 年生であり 4 月に入学して数か月で実施される為、インターンシップの目的や意義を明確にし、取り組む姿勢などの再指導を行いたいと考えている。
- ・インターンシップにおけるケガや事故などの対策はされていますか。
学生は保険に加入しており、事故等に対する備えを実施している。

④「就職」について

- ・建設業界において新卒者の採用が難しいとの声をよく聞く。
学校として優秀な学生を育て、就職させる事により、益々学校としてのチャンスが広がると思われるので継続して努力して頂きたい。

- ・就職してもすぐにやめる学生も多少いるようなので、建設業界の厳しさを学生に伝え、卒業後も学校に相談できる環境を造り我慢の出来る学生を育てて頂きたい。

2) その他

学校自己評価報告書採点用紙の提出期限：10月31日(火) 学校事務局

(5) 次回開催日時等の決定

日 時：平成30年2月15日(木) 18:30~20:00(予定)

場 所：修成建設専門学校 2階 会議室

内 容：平成28年度 学校関係者評価報告書について

以上

(記録・文責：野瀬孝男、見邨佳朗)